

先生、 これは英語で どういうんですか？

生徒が間違えやすいことを、英語の本質的な意味から考える



この冊子は、ARCLE ホームページ (<http://www.arcle.jp/>) で、2013 年 6 月～2017 年 3 月に掲載の田中茂範先生（慶応義塾大学）執筆の人気コラム「先生、これは英語でどうい
うんですか？」を、中学校、高校の先生方にお使いいただけるよう冊子化したものです。
get や on など日常的によく使う動詞や前置詞の使い方が、本質的な意味（コア）からわかり
やすく解説されています。ご一読いただき、該当の項目について指導される際や質問があっ
た際などに、ご活用いただければ幸いです。

ARCLE 事務局

● 目 次 ●

はじめに～英語学習における日本語の影響（L1 フィルター）～・・・01

[動詞編]

Q1. ゴリラは talk できるのに、なぜオウムは speak しかできないの？・・・02

Q2. look, see, watch はどう違うんですか？・・・05

Q3. put は「置く」ではないんですか？・・・09

Q4. break は「こわす」ではないんですか？・・・13

Q5. make は「作る」ではないんですか？・・・18

Q6. get は「得る」ではないんですか？・・・22

[前置詞編]

Q7. at night と in the night の違いは何？・・・26

Q8. なぜハーバード大学は Harvard University で、
オックスフォード大学は the University of Oxford になるの？・・・28

Q9. on は「～の上に」ではないんですか？・・・31

はじめに～英語学習における日本語の影響（L1 フィルター）～

「太陽の昇り沈み」について英語で表現するとどうなるでしょうか。The sun rises in the east and sets in the west. ですね。しかし、The sun rises from the east and sets to the west. と迷われた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このように、日本語での意味をそのまま英語に置き換えることは、生徒のみならず大人の学習者にもよくあることです。

人は既に知っていること（既知）を利用して新たなこと（未知）を学びます。これは学習理論の第一原理だといえます。だとすると、日本人学習者が英語を学ぶ際には、日本語を利用するのは自然なことですし、それは不可避なことです。英語の学習は一種の情報処理であり、その処理には既知の第一言語（＝日本語）が影響します。第一言語（L1）である日本語のフィルターを通して第二言語（L2）である英語を学ぶということです。この第一言語の影響のことを「L1 フィルター」と呼ぶことにします。

インプットとして複数の英語が与えられた場合、そのすべてを一様に学習するわけではありません。ある項目は学習されやすく、ある項目は学習されにくいということが起こります。この「選択学習」にL1 フィルターが作用します。例えば、on の用例で a cat on the bed と a ring on her finger の2つが示された場合、a cat on the bed のほうが学習されやすいことが予測できます。それは日本語の場合と発想が似ており、処理がしやすいからです。

また、情報処理には「取り込み（intake）」の部分だけでなく、取り込んだ項目を知識としてどう捉えるかという「表象（representation）」の側面があります。ここでもL1 フィルターが作用します。例えば a cat on the bed だと「ベッド（の上）の猫」、a ring on her finger だと「指にはめた指輪」として理解し、学習者は「on には『指にはめる』という意味もあるのか」と考えてしまうかもしれません。L1 フィルターの影響は、英語を使ったり、理解したりするという「運用のレベル」でも作用します。冒頭で述べたように、The sun rises in the east and sets in the west. を、The sun rises from the east and sets to the west. と表現するかもしれません。これはL1 フィルターによる誤用です。

このようにL1 フィルターは、ある項目は学習されやすいという選択学習や、太陽の昇り沈みの例のように表象（理解）と運用の局面で作用します。これは自然なことですが、日本語を媒介として英語を学ぶことから有効な英語学習が阻害される可能性があります。

このコラムでは、日本語を媒介とすることで、生徒が間違えやすいことを、英語の本質的な意味（コア）から考え指導に活かしていただけるように、具体的な事例をもとに解説していきます。

ゴリラは **talk** できるのに
なぜオウムは **speak** しか
できないの？



Q. () の中に speak/talk のどちらかを入れてみましょう。

1. ゴリラは話すことができます。 **A gorilla can () .**
2. オウムは話すことができます。 **A parrot can () .**
3. もっとゆっくり話してもらえませんか？ **Could you () more slowly?**
4. 今夜、大統領からみなさんにお話があります。 **Mr. President will () to you tonight.**
5. 赤ちゃんは1歳くらいで話し始めます。 **Babies start to () around one year old.**

▶答えは p.4

よく使われる基本動詞の speak と talk を取り上げたいと思います。speak と talk とくれば、おそらく生徒のほとんどが「話す」を連想するはずですが。日本語に訳すと同じ「話す」でも、speak と talk の使われ方には本質的な違いがあるので。

Speak も talk も日本語に訳すと「話す」？

Speak も talk も「話す」と訳され、混乱してしまうことがあると思います。ゴリラに言語を教えている研究者が「ゴリラは話すことができる」と英語でいう場合、Speak と talk のどちらを使うのでしょうか。A gorilla can talk. が正しく、Speak は使いません。ところが、「オウムは話すことができる」という際には、一般的に A parrot can speak. といいます。これはどうしてでしょうか。

Speak のコア = 「言語音を発する（声に出してことばを話す）」

Speak といえば Speak English や Speak Japanese がすぐに連想されます。このことからわかるように、Speak のコア（本質的な意味）は「言語音を発する（声に出してことばを話す）」です。

<表現例>

- Would you speak up? （もっと大きな声で話してもらえませんか？）
- Could you speak more slowly? （もっとゆっくり話してもらえませんか？）
- Please speak more clearly. （もっとはっきり話してくださいませんか？）

これらの表現は「言語音」の大きさや速度や明瞭さの調整を依頼するものです。ちなみに、ステキな声の持ち主について、She has a nice speaking voice. といいます。「話す声がステキだ」ということですね。上のゴリラとオウムの例ですが、ゴリラは人間の言語を学ぶことができるといわれていますが、人間の言語音を発するのに適した発声器官は持っていません。そこで、A gorilla can speak. とはいえないのです。一方、オウムは人間の声を真似て発声する才能が備わっているため、A parrot can speak. といいます。

Speak のコアからの派生：方向的に言語音を発すること（一方向的に声に出してことばを話す）

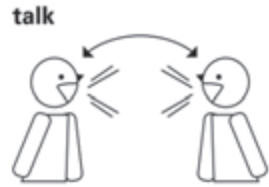
Speak のコアから派生する意味合いとして「一方向性」があります。a speaker の speaker は Speak の名詞形ですが、「講演者」と「拡声器（loud speaker）」の2つの意味があります。講演者は聴衆に向けて一方的に話をするという印象があり、拡声器から外に流れる音の様子と重なります。「今夜、大統領からみなさんにお話があります」は Mr. President will speak to you tonight. となり、一方向性の Speak がピッタリです。



© Benesse Corporation 2003

talk のコア＝「言語的なやりとり」

では、talk のコアは何でしょうか。最初の例に戻りますが、A gorilla can speak. とはいえませんが、A gorilla can talk. とはいえます。これは「ゴリラはやりとりができる」という意味合いがあるからです。つまり、talk は「言語的なやりとり」がその本質的な意味になります。ですので、「赤ちゃんは1歳くらいで話し始める」は Babies start to talk around one year old. と talk を使うのがふつうです。赤ちゃんは周りの大人に対して何かを伝えたくて（おなかがすいた、かまってほしいなど）、またそれに対して反応してほしいくて、話し始めるからです。そしてここでいう「言語的な」には「音声を使った言語」だけでなく「手話」なども含まれます。一方、オウムはというと、「オウム返し」という日本語にもあるように、基本的には人間のことばを真似て音を出すだけなので、A parrot can speak. となります。しかし、オウムを飼っている人が感情移入をしてオウムと会話が成立していると考えていれば My parrot can talk. と表現することも可能です。



© Benesse Corporation 2003

意見を交わす、交渉などの意味が入るときも talk

「首脳会談」のことを summit talks といいます。ここでの talks は名詞ですが、首脳がいろいろな課題について意見を交わすことから talk が使われます。もちろん、テレビ番組で a talk show といえば、そのまま「トークショー」です。また、a walkie-talkie という表現があります。a speaker は「拡声器」でしたが、a walkie-talkie は文字通り「歩きながら相手と話を交わすための何か」ということであり、日本語の「トランシーバー」に当たります。おもしろい成句のひとつに Money talks. があります。「金が物をいう」ということで時に「地獄の沙汰も金次第」の英訳に使われる表現です。Money speaks. といえば SF の世界になってしまいます。交渉（やりとり）が背後にあるため、Money talks. が意味を成すのです。

電話の際の speak と talk

上記の speak と talk の本質的な意味の違いがわかると、電話のときの以下の慣習的な会話にも納得がいきます。

- － Can I talk to Jim Brown? (ジム・ブラウンさんとお話できますか?)
- － Speaking. (私です。)

Speaking. とは He (=Jim Brown) is speaking. の略です。電話をかけたほうはジム・ブラウンとやりとりを希望しているので talk を使い、電話の受け取り手であるジム・ブラウンは「声を出している人が当人です」と伝える（まだやりとりは発生していない）ために speak を使うのです。

このように、speak は「言語音を発する（声に出してことばを話す）（一方向性）」、talk は「言語的なやりとりをする（双方向性）」とそれぞれのコアを押えておけば、それぞれの本質を理解することができると思います。

(p.2 の答え：1. talk 2. speak 3. speak 4. speak 5. talk)

look, see, watch は どう違うんですか？



Q. () の中に look、see、watch のどれかを入れてみましょう。

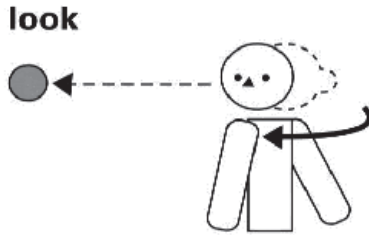
1. 外で何が起こっているか見てほしい。() **and see what's going on outside.**
2. 足元に気をつけて。() **your steps.**
3. 暗闇で何も見えない。I can't () **anything in this darkness.**

▶ 答えは p.8

「何かを見る」と聞いてどんな英語を連想するでしょうか。おそらく、look と see をまず思い浮かべ、それに watch を加える人が多いと思います。これらは中学校の段階で学ぶ基本的な動詞です。しかし、これらをちゃんと使い分けられるかと聞けば、「あまり自信がない」という人が少なくありません。星を見る際には、状況によって3つの動詞のすべてを使うことが可能です。「どうしてか？」については最後に説明します。まず、look, see, watch のコアとなる意味をみていきましょう。

look のコア＝「視線を向けて見る」

家の外が騒がしいとします。そこで「誰か他の人に外で何が起こっているか見てみてほしい」という際に、look と see の両方を使って、Look and see what's going on outside. といいます。see and look という並べ方はありません。先に look して次に see するという順番になります。それは、どうしてでしょうか？ look のコア（本質的な意味）を理解するとわかります。look のコアは、下の図のように「視線を向けて」というものです。何かを見るには、まず、それに視線を向ける必要があります。だから、look（視線を向ける）and see（見る）という順番になるのです。



© Benesse Corporation 2003

look のいろいろな使い方

look のコアの意味は「視線を向けて見る」ですが、そこから look のいろいろな使い方を説明することができます。

まず、look は、「視線を向ける」先を示すのが通常です。そこで、at, up, in, over, back, through, around などの前置詞や副詞と一緒に使います。look at と at を使う理由がちゃんとあるのです。"Don't look back. Look at him. He's always looking ahead." といえば「済んだことは考えないで。彼を見てごらん、いつだって前を向いて生きているだろう」といった意味になりますが、look back、look at、look ahead はすべて視線をどこに（あるいは何に）向けるかで決まる表現です。

また、「視線を向ける」ということは、look は動作動詞であるということになります。だから、He is looking at the dog. のような進行形にすることができるのです。犬に視線を向けているかどうかは第三者にも見るができるため、He is looking at the dog. と表現することができます。後ほど説明しますが、He is seeing the dog. とはいけません。

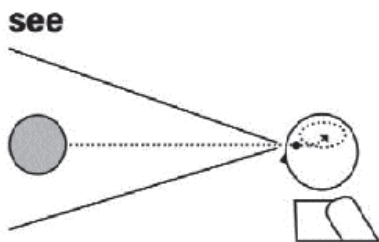
see のコア＝「視覚器官（目）が働き、何かを視野に捉える」

see のコアは「視覚器官（目）が働き、何かを視野に捉える」というものです。see のコアには「視覚器官の働き」と「対象を視野に捉える」の2つの要素が含まれています。「視覚器官の働き」に重点を置いた例として、Just born babies still don't see. があり「生まれたばかりの赤ん坊は目が見えない」という意味になります。また、暗闇で何も見えないと

いう状況でも、暗闇では「視覚器官がうまく機能しない」ため、I can't see anything in this darkness. と表現します。

「対象を視野に捉える」の典型例には、I saw a boar in the mountain yesterday. (昨日、山でイノシシを見た) や I can see a lot of stars here. (ここではたくさんの星が見える) が含まれます。実際に、何かを(静止画的に)視野に捉えるというのが see のポイントで、外(第三者)からは(その人に)何かが見えているかどうかはわかりません。これが look との違いです。そこで、He is seeing the dog. とはふつういいません。

また、通常、何かに視線を向けると、それを見ることになりますが、厳密に言えば、look は「視線を向ける」がポイントで、「実際に何かを見る」までは含みません。そこで、I looked over and over again but didn't see anything. (何度も何度も見てみたけど、何も見えなかった) といった表現が可能なのです。



© Benesse Corporation 2003

see の他の使い方

「視野に何かをちゃんと捉える」ということから「わかる」という状況でも see を使います。He doesn't see that it matters. (彼はそれが大事だということがわからないのだ) だとか I see what you mean. (おっしゃることはわかります) がその例です。

通常、「見える」という意味合いでは see を進行形にすることはしません。しかし、「人物を見る」ことから「会う」、さらに「付き合う」と意味が展開した場合には、I am seeing John. (私はジョンと付き合っている) のように進行形で表現します。付き合えば「ジョンを習慣的に見る状態になる」ということになります。そこで、習慣的意味を表すのに進行形が使われるのです。

watch のコア = 「動きがあるものを注意して見る」

look と see の違いに加えて、watch も見ておきましょう。watch のコアは、「動きがあるものを注意して見る」です。何か変化を予測しながら見てというのが watch です。I usually watch TV after dinner. (夕食後たいてい TV を見る) の TV はテレビ映像のことで、テレビ受信機ではありません。映像はどんどん変化します。Could you watch the children while I'm away? (ちょっと離れている間、子どもたちのことを見ていてもらえますか) でも、

「子どもは動き回るもの」という前提があり、「しっかり見張っている」という意味合いがあります。Look! だと（ほら、見て）という意味合いですが、Watch (out)! だと（気をつけて）となります。Watch your steps. (足元に気をつけて) も危ないことがあるかもしれないので注意を向けておくということです。Watch your language. (コトバ使いに気をつけなさい) は、悪態をついたときなどに戒める表現ですが、相手のコトバが乱れないように注意せよ、という意味です。

「昨夜、テレビで面白い映画を見た」は、通常、I watched a good movie on TV last night. といい、「昨夜、映画館で面白い映画を見た」は、I saw a good movie in the theater last night. といいます。前者は、on TV があるため「流れている映像」のイメージが強くなり、watch と相性がよくなります。一方、映画館は場所であり、そこで映画を見たという場合は、「流れる映像というよりも 1 つの作品を見た」という意味合いが強くなり、ちょうど絵画を視野に捉えるように映画作品を視野に捉えたという表現だといえるでしょう。「先週、映画を 3 本見た」は I saw three movies last week. となります。それは、作品として見る経験をしたということなので「何かを静止画的に見る」の see が好まれるのです。

watch



© Benesse Corporation 2003

まとめ

look も see も watch も「見る」ですが、区別の仕方としては、look は「何かに視線を向けて見る」、see は「何かを静止画的に見る」、watch は「何かを動画的に見る」と考えておけばよいと思います。「星を見る」というケースで考えると、星に視線を向けて見るのであれば look が、星が見えるということであれば see が、そして、じっと星（の変化）を見ているのであれば watch が使われます。

put は「置く」では
ないんですか？



Q. () に何を入れますか。

1. 目薬をさす () **some eye drops in (one's eyes)**
2. 切手を貼る () **a stamp on the envelope**
3. 傘を電車に置いてくる () **an umbrella in the train**
4. 店にブーツを置く () **boots**

▶ 答えは p.12

今回は put を取り上げたいと思います。おそらく、生徒のほとんどが put とくれば「置く」を連想するはずですが、しかし、「put = 置く」という理解の仕方には2つの大きな問題があります。

put は「置く」と捉えない

僕は、英語の授業で、大学生に「目薬をさす」をどう英語で表現するかという質問をほぼ毎年しています。学生の中には英語にかなり自信を持っている人もいますが、ほとんど「正解」が出てくることはありません。そこで、「目薬をさす」は put some eye drops in (one's eyes) と put を使って表現すればよいと解説すると、あっけにとられた顔をして「えっ？ put でいいんですか？」と応答します。「put = 置く」からは「目薬をさす」で put を使うということはなかなか想像できないからです。

実際に put は、以下のように、多様な使われ方をする動詞です。多くの学習者は put にはたくさんの意味があり、その複数の意味が辞書に載っていると考えてしまいます。そして、put のいろいろな「意味」を覚えようとしますが、このようなやり方では put の感覚をつかむことはできず、put の意味が結局はわからないことになってしまいます。

<表現例>

- put a book on the shelf （本を棚に置く）
- put a letter in the envelope （封筒に手紙を入れる）
- put a stamp on the envelope （封筒に切手を貼る）
- put a tax on luxury articles （高級品に税金を課す）
- put the novel into French （小説をフランス語に翻訳する）

このことからわかるように、「put = 置く」と限定的に捉えてしまうと「put」の意味を使い切れるようにはなりません。これが第一の問題です。

「置く」は put で表現できないこともある

もう1つ、「置く」はいつでも put で表現できるわけではない、という問題があります。「秘書を置くことにしよう」「この店にはブーツを置いてありますか」「傘を電車に置いてきた」などの「置く」を英語で表現する課題を考えるとすぐにわかるでしょう。ちなみに「秘書を置く」は staff one's secretary、「店にブーツを置く」は carry (have) boots、「傘を電車に置いてくる」は leave an umbrella in the train といい、put で表現することはできません。つまり、「置く」は put の最も基本的な意味だと考えられていますが、put の使用範囲と「置く」の使用範囲が同じというわけではないということです。すると、put の意味をどう理解すればよいかという問題が出てきます。

put の意味の感覚をつかもう

では put の意味をどう理解すればよいのでしょうか。put のような基本動詞の意味は「多様で複雑」なのではなく、「単純で曖昧」です。曖昧性があるからこそ、いろいろな状況で使

うことができる、という発想への切り替えが大切です。先ほど put の多様な使われ方の例をご紹介しましたが、put に「課す (impose)」や「翻訳する (translate)」という意味があるわけではありません。put には put の本来の意味があります。それが put のコアです。

put のコア＝「何かをどこかに位置させる（プットする）」



put

put のコア（本質的な意味）は「何かをどこかに位置させる」くらいの感覚で捉えておくといいですね。実際は、「位置させる」というのも厳密に言えば不正確であるため「プットする」というカタカナ表現を使うのがよいと思います。

そして「何をどこにプットするか」によってさまざまな意味合いが生まれることを理解し、「課す」「翻訳する」といった「意味合い」は put の意味というより put が使用される状況を説明したものと理解しておくとうよいと思います。

<感覚をつかみましょう>

- ・ put a stamp on the envelope （切手を封筒の表面にプットする → 切手を貼る）
- ・ put a letter in the envelope （封筒の中に手紙をプットする → 手紙を入れる）
- ・ Let me put the cat out. （猫を外にプットする → 猫を外に出す。）
- ・ Put your hand under the tap. （手を蛇口の下にプットする → 手を蛇口の下にかざす。）
- ・ put eye drops in one's eyes （目薬を目の中にプットする → 目薬をさす）

もっと、put の意味の感覚をつかもう：put と set の違い

put を「何かをどこかに位置させる」と理解しても set との違いがはっきりしません。そこで set のコアを示し、put のコアと対比的な関係に置くと、双方の動詞の感覚がはっきりしてきます。set のコアは「定められた位置に何かをすえる」というものです。put との違いを図式的に示せば、以下のようになります。



put



set

【put のコア】何かをどこかに位置させる

【set のコア】定められた位置に何かをすえる

<感覚をつかみましょう>

- ・set the dishes on the table といえば set のコア「定められた位置に何かをすえる」から「食卓を用意する」という意味合いになります。put the dishes on the table だと、put のコア「何かをどこかに位置させる」から何枚かの皿を無造作に食卓に載せたという状況も十分に考えられます。
- ・On your marks, (get) set, go! は陸上競技などでの「位置について、よーい、どん」です。set のコア「定められた位置に何かをすえる」から「定められた線のところに手を位置させて体勢をとる」というのが on your marks, (get) set です。
- ・太陽が沈むときに The sun sets in the west. といいます、ここでも「太陽が沈む位置」が想定されるため set が（ここでは自動詞的に）使われます。

put のコアは単独でみると曖昧ですが、set のように意味的に近い動詞と比較することで両者の差異がわかり、その差異化を通して、それぞれの動詞のコアがより機能的なものになっていくのです。僕は、長年、基本動詞の習得やその意味研究を続けていますが、put の本来の感覚を獲得することによってはじめて、put という語を使い切ることができるようになるのだと確信しております。

break は「こわす」ではないんですか？



Q. () には同じ単語が入ります。何を入れますか。(6. には過去形が入ります。)

1. 窓を割る () **a window**
2. パンをちぎる () **bread**
3. 約束を破る () **one's promise**
4. 馬を調教する () **a horse**
5. 100 ドル札をくずす () **a hundred dollar bill**
6. 声変わりをした。 **My voice** () .

▶ 答えは p.17

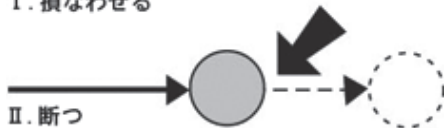
今回は「break」を取り上げたいと思います。break といえば break a window (窓を割る) や break a vase (花瓶をこわす) のような例を思い浮かべる人が多いようですが、break には実にさまざまな意味があります。上の例の「(パン)をちぎる」「(約束)を破る」「(馬)を調教する」「(お金)をくずす」「(声変わり)をした」など、1つ1つ日本語の対応語を通して break の意味を理解しようすると大変です。break の意味の広がりを理解するコツは、その本質的な意味(コア)を理解し、そこからどのように意味が展開するかを知ることです。

break コア＝「(力を加えて) 形・流れをコウス」

break



I. 損なわせる



II. 断つ

© Benesse Corporation 2007

break は「こわす」と理解している人が多いようです。基本的には「こわす」ということなのですが、大切なのは「何を」こわすのかです。結論からいえば、break のコア（本質的な意味）は、「(力を加えて) 形・流れをコウス」と記述することができます。自動詞的に表現すれば「形・流れがコワレル」となります。左の図は「形」と「流れ」に注目した break のコアを表したものになります。

つまり、「形をコウス」場合は「形を損なわせる」という意味合いが出てきます。そして、

「流れをコウス」ということから「流れを断つ（絶つ・中断する）」という意味合いが生まれます。break のさまざまな用法はこの2つの意味合いの転用だと考えることができます。

このように、break のコア（本質的な意味）を理解することで、日本語の「こわす」とくれば何でも break だとの思い込みから起こりがちな以下のような間違いも防ぐことができるかと思います。

< break を使わない 表現例 >

- destroy / spoil a friendly relationship with the nation (その国との友好的な関係をこわす)
- upset someone's stomach (胃をこわす)
- ruin someone's dream (夢をこわす)

break＝(力を加えて) 形をコウス場合

まず、「形をコウス」の break はいろいろな状況で使われます。日本語でいえば「(窓を) 割る」「(パンを) ちぎる」「(腕を) 折る (骨折する)」「(枝を) 折る」などすべて break を使って表現します。

< 表現例 >

- break a window (窓を割る)
- break bread (パンをちぎる)
- break one's arm (腕を折る)
- break branches from a tree (木から何本かの枝を折る)

これらがイメージ上で共通しているのは「形をコウス（損なわせる）」ということです。

形をコウスから広がる意味：形のないものも形と捉えてコウス

また、「形」といっても具体的なものだけでなく「心」も形(ハート)のあるものとして捉えて、break one's heart (心理的な力を加えて傷つける)のように表現します。また、場をなごやかにするために話の口火を切るという意味で、break the ice という熟語もあります。氷が「盛り上がりがない沈黙状態」を比喩的に表現しており、それを「割る」ということです。氷が割れれば、新たな展開が期待できます。

<表現例>

- ・ break one's heart (傷つける)
- ・ break the ice (話の口火を切る、緊張をほぐす)

形をコウスから広がる意味：細分化する

「形をコウス」から派生するおもしろい表現例として、Can you break a hundred dollar bill? 「100 ドル札をくずしてもらえますか」があります。これは 100 ドル札の価値を細分化するというイメージです。break tasks into 5 stages 「タスクを 5 段階に分ける」という用例はまさに「分類する、分解する」という意味で、これに当てはまります。

<表現例>

- ・ Can you break a hundred dollar bill? (100 ドル札をくずしてもらえますか?)
- ・ break tasks into 5 stages (タスクを 5 段階に分類する)

break= (力を加えて) 流れをコウス場合

一方、動きを break すれば、「流れをコウス」となります。これは「流れを断つ(絶つ)」「中断する」、あるいは「動きを変える」という意味合いです。a coffee break といえば、長引いた会議などでの「中休み」のことです。ちなみに、breakfast の break も同じで、「断食 (fast) を中断する (break)」ということです。この場合は前日の夕食から翌日の朝食までの間隔が、その他の食事の間隔よりも長いために、朝食のみこういういい方をします。

また、すでに日本語にもなっている a windbreaker (ウィンドブレーカー) も風の流れをさえぎるという意味です。They broke their journey to Kyoto at Nagoya. といえば「彼らは京都への旅を名古屋で一時中断(途中下車)した」という意味です。「約束を破る」は英語では break one's promise といういい方をします。この場合、「約束」を「形」として捉えるか「流れ」として捉えるかが微妙なところがありますが、「約束を守る」は keep one's promise といいます。約束の効力が維持されるというのが keep one's promise で、それが何

らかの理由で断たれると「約束は破られた」ということになります。似たような例では「ルールを破る」break the rules もありますね。

<表現例>

- a coffee break (休憩)
- breakfast (朝食)
- a windbreaker (ウィンドブレーカー)
- They broke their journey to Kyoto at Nagoya.
(彼らは京都への旅を名古屋で一時中断〔途中下車〕した。)
- break one's promise (約束を破る)
- break the rules (ルールを破る)

流れをコワス場合から広がる意味：変化

「流れをコワス」からは「変化」を読み取ることができます。わかりやすい例として「変化球」のことを a breaking ball といいます。「折れ線」も a broken line といいます。ある方向に向かって一定に流れていたものが向きを変えるということです。冒頭の「声変わりをした」も My voice broke at the age of twelve. といいます (break one's voice といういい方もします)。これも変化の例とみなすことができます。また、よく使う例として「馬を調教する」ということを break a horse といいます。馬の調教は、馬の本来の野性的な面を訓練で break (変化) させ、人がコントロールできるようにすることだと考えると break の意味合いが感じられるでしょう。

<表現例>

- a breaking ball (変化球)
- My voice broke at the age of twelve. (12歳のときに声変わりをした。)
- break a horse (馬を調教する)

break の自動詞的用法＝形・流れがコワレル場合

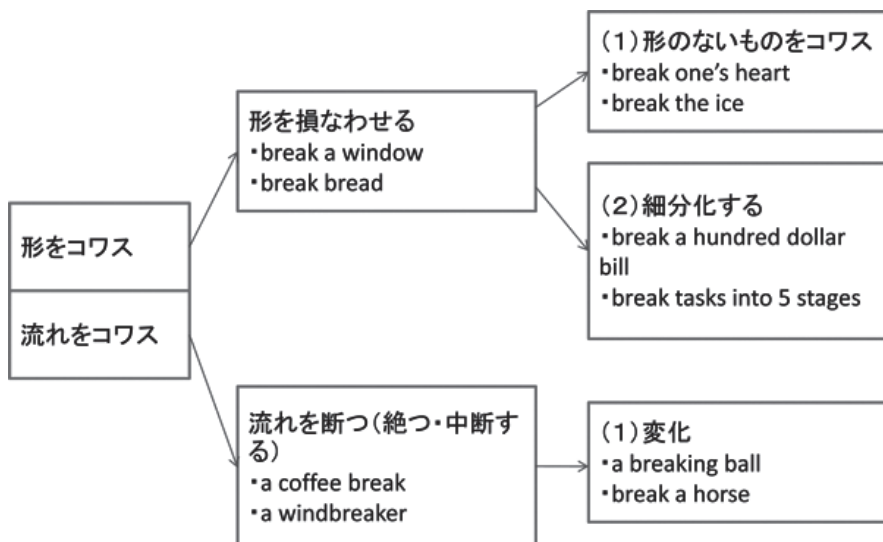
自動詞的用法でも「形がコワレル」と「流れがコワレル」の2つがあります。波が岩に当たって碎ける様子を Waves are breaking against the rocks. と表現するのは「形がコワレル」の例です。一方、野球で「今日は彼のカーブはキレがある」を His ball is really breaking today. と表現することができますが、これも「(直線の) 流れがコワレル (変化)」の例ですね。

<表現例>

- Waves are breaking against the rocks. (波が岩に当たって砕けている。)
- His ball is really breaking today. (今日は彼のカーブはキレがある。)

break の意味のまとめ

以上をまとめると、break の「形・流れをコワス」というコア（本質的な意味）は、次のような意味的な広がりを持っているといえます。



break の意味のイメージ図

make は「作る」では
ないんですか？



Q. () には同じ単語が入ります。何を入れますか。

1. 意思決定をする () **a decision**
2. 約束をする () **an appointment**
3. よい印象を与える () **a good impression**
4. 大成功する () **a big success**

▶ 答えは p.21

make とくれば「作る」をすぐに連想すると思います。しかし、それだけでは、make の理解としては不十分です。例えば、タクシーに乗っている状況で、Can you make the airport by five o'clock? といえどどういう意味でしょうか。もちろん、「空港を作る」ということではありません。「5時までになんとか空港まで行ける？」と問う状況です。また、make には「～させる」という使役用法もあります。使役用法については、have との意味の違いがうまく説明できないという先生も少なくありません。make のコア（本質的な意味）を知ること、使役用法などの make の構文の理解にも役立てましょう。

makeのコア＝「手を加えて何かを作る」

makeのコアは、以下の図で示しているように、「何かに手を加えて何かを作る」というものです。「何か（典型的には素材）」と「作品・産物」の2つがmakeを理解する上では重要です。

代表例として、She made a delicious cake. (彼女はおいしいケーキを作った) があります。薄力粉、卵、牛乳、砂糖などの「素材」があり、それに手を加えて、ケーキという「作品・

make



© Benesse Corporation 2007

産物」を作るということです。何かを作る場合のmakeでは、「作られるもの」が肝心なので、She made a delicious cake.のように、その素材は前提として示されないことがよくあります。

日常的によく使う make

また、makeは大変よく使われる動詞ですが、日常会話で実際によく使われるのは、以下のような連語です。

<表現例>

- ・ make an appointment (約束〔予約〕をする) ・ make a decision (決定をする)
- ・ make a lot of money (たくさんのお金を稼ぐ) ・ make a profit (利益をあげる)
- ・ make a big difference (大きな違いを生む) ・ make a big discovery (大発見をする)
- ・ make a big mistake (大間違いをする) ・ make a big deal (大騒ぎする)
- ・ make a big success (大成功する)

これらの連語では、makeの対象が具体物ではありませんが、「何かに手を加えて何かを作る」というコアが根底にあります。例えば、「約束 (an appointment)」や「決定 (a decision)」だと、それに至るまでにいろいろな調整をして (手を加えて)、約束とか決定という形になったということになります。

makeのコアの中の「手を加えて」を、「なんとかして」という意味で捉えると、次の例文をすんなり理解することができます。Bill tried to make a good impression on her parents. だと「ビルは彼女の両親によい印象を与えるように努力した」ということですが、「よい印象 (a good impression) をなんとかして作った」というのがこの表現にある感覚です。

make + 名詞 + into + 名詞

これまでは make + 名詞 (代名詞) を例にみてきましたが、makeの対象になるのはモ

ノだけではありません。次の文をみてみましょう。

<表現例>

- ・ John made grapes into wine. (ジョンはブドウでワインを作った。)

素材と作品の関係でいえば、ブドウが素材で、ワインが作品です。しかし、ここでの make の対象は grapes ではありません。make の及ぶ範囲は、(grapes into wine) で、ブドウに手を加えてワインにするという過程がそのまま表現されています。ここで注目したいのは、make wine ではなく、make grapes into wine と表現しているという点です。そして、make grapes into wine では「ブドウをワインに変える状況」を make するということです。make wine out of grapes だと wine が make の目的語で、out of grapes は素材を示す表現です。しかし、make grapes into wine は形の上では同じでも、make の作用する範囲は grapes でなく、(grapes into wine) 全体なのです。

make + 名詞 + 名詞

次に、make + 名詞 + 名詞の構文を使ったものをみてみましょう。

<表現例>

- ・ I'm going to make this city a better place for young people.
(私はこの町を若者にとってよりよい場所にするつもりだ。)
- ・ We will make Chiba a city of international tourism.
(我々は千葉を国際観光都市にする。)

これらの例では、すべて make (名詞 BE 名詞) という意味関係がみられます。例えば、make this city a better place for young people の部分は、make (this city BE a better place for young people) となり、「この町が若者にとってよりよい場所である」という状況を作ることになります。All work and no play makes Jack a dull boy. という諺があります。これは「勉強ばかりして遊ばないと子どもはつまらない子になる」ということですが、make (Jack BE a dull boy)、つまり「ジャックがつまらない少年である」という状況を作るという意味関係が含まれています。

使役用法

make には使役用法もあります。典型的には「人を～させる」という意味合いの表現です。まず、次の例を見てみましょう。

<表現例>

- ・ She always makes me happy.
(彼女はいつでも僕を幸せにしてくれる。)

She always makes me happy. は、意味関係としては make (me BE happy) となり「私が幸せである」という状況を作るということです。これは、make + 名詞 + 形容詞の構文で、「人を～の状態にさせる」ということになります。

「(相手が嫌だといっても) 人に～という行為をさせる」という状況でも make を使います。例えば「ほうれん草が苦手なのに、お母さんに毎日食べさせられる」という状況がそれです。これを英語では、Mom makes me eat spinach every day. と表現します。これは make (me EAT spinach every day) という意味関係で、me と spinach の間に動詞が入っています。解釈としては、「僕が毎日ほうれん草を食べる」という状況をお母さんが作り出すということです。make の「何かに手を加えて何かを作る」というコアの「手を加えて」の部分が、「なんとしても」の意味合いになり、強制力が生まれるのです。Love will make you do wrong. といえば、「愛で人は間違ったことをしてしまうことがある」といった意味合いでしょうか。これも「愛」というものが正常な判断を妨げて何か悪いことをさせてしまうという強制力を感じさせる表現です。

使役用法 make と have の違い

have にも使役用法があり、make と違いがわからないという生徒がいます。make のコアは「何かに手を加えて何かを作る」ということで、「させる」の意の使役用法になっても、「変化(手を加える)」と「産物」の両方が関係します。そして、前述のように「手を加えて」の部分は「なんとかして」という意味合いになり、そこで強制力のようなものが生まれるのです。

一方、have のコアは「自分のところに何かを持つ」ということで、使役では「産物」のみに強調点が置かれます。ここでいう「産物」は「期待される状況」ということで、have someone do it といえば「誰かが何かをする状況」が産物で、それを確保するというのが have です。そこで、立場の上の者が(権限で)下の者に「何かをちゃんとやらせる(やってもらう)」という状況では have がぴったりです。先ほどのほうれん草の例でも、I'll have him eat spinach. といえば、「彼にちゃんとほうれん草を食べさせる(ほうれん草を食べる状況を持つ)」という感じになります。

このように make の「手を加えて」というコアを抛り所に、その構文的な可能性をみていくと make という動詞の持ち味がより深く理解できると思います。

get は「得る」ではないんですか？



Q. () には同じ単語が入ります。何を入れますか。

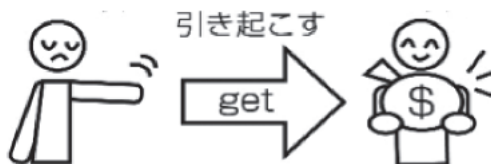
1. 友だちができたよ。 I () a friend.
2. 間違い電話です。 You () the wrong number.
3. 腹が立った。 I () angry.
4. 彼はついに逮捕された。 He finally () arrested.

▶ 答えは p.25

get は日常会話のいろいろな場面で大活躍する基本動詞です。「相手にコーヒーを入れてあげよう」という場面では、I'll get you a cup of coffee. というでしょうし、電話がかかってきて「間違い電話です」といいたければ、You got the wrong number. というでしょう。また、誤解している相手に「誤解しないでくれ」といいたいときも、get を使って Don't get me wrong. といいます。ここではコア（本質的な意味）を理解して、get を使い切れるようにしましょう。

get のコア＝「ある状態を得る」

日本語でも最近では「ゲットする」といういい方をします。日本語の「ゲットする」は「何かモノ（お金、スマホなど）を手に入れる」という意味に限定されがちですが、前述のように、英語の get には多彩な使い方があります。get のコア（本質的な意味）をひと言でいうと、「ある状態を得る」となります。これを I got some money. を例にしてイメージ図で表すと下の図のようになります。



© Benesse Corporation 2007

この「ある状態を得る」というコアは、「ある状態にする」と「ある状態になる」の2つの意味を含んだ表現です。問題は、「ある状態」とはどういう意味か、ということです。

具体例で考えてみましょう。上の図で想定している I got some money. とは、「お金を手に入れた」ということです。日本語の「お金をゲットした」ということですね。コアを使って説明すれば、「お金を手にする状態を得た」ということです。「お金を持っていなかった状態から、お金を持っている状態にする（獲得する）」ということですから、ここには変化が感じられます。これが「ある状態にする」の get の典型例です。単に「お金を持っていた」ということであれば、I had some money. と表現します。「一等賞をとった」は She took first prize. と She got first prize. の両方が可能ですが、take だと「受け取った」、get だと「努力して勝ち得た」といった意味の違いがあります。get のコアを考えれば、すんなり理解できると思います。

なお、I got some money. と同様の例として、以下があります。

<表現例>

- ・ I got a friend. (友だちができたよ。)
- ・ I got letters from the fans. (ファンから手紙をもらったよ。)
- ・ You got my message, right? (ちゃんと僕のメッセージは受け取っただろうね。)
- ・ She got an A on her final exam. (彼女は最終試験で A を取った。)

ここで共通しているのは、友だちや手紙などを持っていなかった状態から、持っている状態にする、『X HAVE Y』の状態にする（獲得する）」ということです。

次に「ある状態になる」という場合もみていきましょう。She got sad. といえば、「彼女は

悲しくなった」ということです。これも She was sad. 「彼女は悲しかった」とは違いますね。She got sad. には「ある心理状態（悲しくなかった状態）から悲しいと感じる状態へと変化した(状態になった)」ことが含まれています。これが「ある状態になる」の get の例です。She got sad. と同様の例には以下があります。

<表現例>

- I got angry. (腹が立った。)
- He's getting old. (彼は年をとってきている。)
- It gets cold here around the beginning of October. (この辺りは10月の初めには寒くなる。)
- We'll get there soon. (すぐにそこに到着します。)
- I'll get home by six. (6時には家に着きます。)

I got angry. と It gets cold here around the beginning of October. は「get + 形容詞」の例ですが、We'll get there soon. と I'll get home by six. は「get + 副詞」の例です。いずれにせよ、『X BE Y』の状態になる」ということで共通しています。つまり、It gets cold. は「“It is cold.” の状態になる」、I'll get home. は「“I am home.” の状態になる」ということです。

なお、「get + 形容詞」の応用として、以下のような使い方もあります。

<表現例>

- She got frightened when she saw the horror movie. (彼女はホラー映画を見て怖がった。)
- She got dressed up. (彼女は着飾った。)
- He finally got arrested. (彼はついに逮捕された。)

ここでも『X BE Y』の状態になる」ことを読み取ることができます。例えば、He gets arrested. は「“He is arrested.” の状態になる」ということで、He got arrested. は「“He was arrested.” の状態になる」ことを結果として含んでいます。

get の応用例

このように get には HAVE と BE が意味的に関係するということは get の用法を理解する上で重要です。「変化して、HAVE あるいは BE の状態を得る」ということです。このことを念頭に、I'll get you some coffee. といういい方をみてみましょう。「コーヒーをいれましょう」という意味です。しかし、この例では何を get するのでしょうか。この例文に HAVE を入れて次のように分析すれば、意味関係がわかりやすくなります。

I'll get you some coffee. → I'll get [you HAVE some coffee].

つまり、「ある状態を得る」という際の「状態」は、[you HAVE some coffee]『あなたがコーヒーを手にする〔飲む〕』という状態のことです。そして、「私がそういう状態にする」というのがここでの表現です。I got some coffee. だと主語の「私」が [I HAVE some coffee] という状態にしたということですが、I'll get you some coffee. だと主語の「私」が [you HAVE some coffee] という状態にするということです。S get [X HAVE Y] の構文は次のように使います。

<表現例>

- ・ I got [her a new dress]. (彼女に新しいドレスを買ってやった。)
- ・ Get [me a towel], will you? (タオルを取ってくれないかい?)

一方、BE も get の理解には不可欠です。Don't get your shoes dirty. という文は「靴を汚さないようにね」という意味ですが、ここでも何を get するのかを考えてみましょう。your shoes でも dirty でもありません。つまり、get [your shoes dirty] ということです。ここで、your shoes と dirty の意味関係を示すために BE を入れてみましょう。

Don't get [your shoes BE dirty].

すると、『君の靴が汚れている』状態にするな』ということだとわかりますね。get [X BE Y] の構文はいろいろな形で使うことができます。

<表現例>

- ・ I'll get [my blood checked]. (血液検査をしてもらおう。)
- ・ I got [all the work finished] yesterday. (すべての仕事を昨日完成させた。)
- ・ I'll get [this report done] by tomorrow. (この報告書を明日までに片づけよう。)

I'll get my blood checked. では I'll get [my blood BE checked]. ということで、ここでも『自分の血液が検査される』状態にする』というのが get [my blood checked] という表現です。

このように get には BE と HAVE が関係しており、get [X Y] の構文だと [X HAVE Y] か [X BE Y] が想定されていると考えるとよいですね。

なお、冒頭の Don't get me wrong. についても、Don't get [me BE wrong]. であるという意味関係を考えれば、『私が間違っている』という状態を得るな』ということから、「誤解するな」といった意味合いになることが理解できると思います。

at night と in the night の 違いは何？



Q. 下記の () には in, at, on のどれを入れますか。

1. 一晩踊り続けたね。もう朝 4 時だよ。

We've danced the whole night through. It's four o'clock () the morning now.

2. 夏休み中、午後は部活で忙しい。

During the summer holiday, I'm always busy with club activities () the afternoon.

3. タ方にはここにいるよ。I'll be here () the evening.

4. 当機は午後 6 時に成田国際空港に到着する予定です。

We'll be landing at Narita International Airport () 6 p.m.

5. クリスマス期に故郷に戻る。I'm going back to my hometown () Christmas time.

6. クリスマスには近所の店は深夜 12 時まで開いている。

Shops in our neighborhood are open until midnight () Christmas Day.

7. お正月には祖父母に会いに行く。

I'm going to see my grandparents () New Years day.

▶答えは p.27

日本語では「(曜) 日」も「月」も「時刻」にも助詞の明確な使い分けはありません。しかし、英語では「6 時に」は at six、「午前中に」は in the morning、そして「クリスマスに」は on Christmas Day と、日本語では同じ「～に」でも、英語では at, in, on を使い分けます。ここで必要なのは、どうして英語では at, in, on を使うのかということとそれぞれのコア（本質的な意味）を通して理解することです。

まず、in と at の違いに注目しましょう。in の本質的な意味（コア）は「空間内に」で、「幅」としての時間に使われます。「幅」といっても「その時間の中で（に）」と内部に視点が置かれる場合に用いられるのがポイントです。一方、at のコアは「ところ（場所）」であることから外部の視点で時間を捉えることになります。at night は、「時間帯としての夜」であって、in the morning、in the afternoon、in the evening のようにその時間帯の中に意識を置くことはできません。in the night といえば「その中での活動の時間帯」といった意味合いです。これは、夜のとりが下りた時間帯としての at night とは意味合いが異なります。時間の流れが意識されれば in が、感じられなければ at が使われると考えてもよいでしょう。at noon（正午に）、at midnight（深夜 12 時に）、at dawn（夜明けに）などは、時間の流れというより時刻あるいは時間帯を表す表現です。

なので、コラムのタイトルにある at night と in the night ですが、at night は夜の時間帯を表し「人は夜眠る」という場合は People sleep at night. と at night になります。表現としては at night が一般的ですが、夜の時間で何かをするということが強調されれば in the night を使うことができます。「暗闇でこそ悪事を働く人」のことを a thief in the night といいます、「夜中に泥棒をする人」ということで in がピッタリです。

<表現例>

- We've danced the whole night through. It's four o'clock in the morning now.
（一晩踊り続けたね。もう朝 4 時だよ。）
- We'll be landing at Narita International Airport at 6 p.m.
（当機は午後 6 時に成田国際空港に到着する予定です。）

次に、at と on について考えてみましょう。「クリスマス期に故郷に戻る」だと I'm going back to my hometown at Christmas time. と at を使って表現します。「クリスマス期」は 12 月 23 日から 12 月 26 日ぐらいの幅のある期間ですが、外から見た時期（流れを意識しない時間帯）として捉えた表現だといえます。一方、「クリスマスに」だと on Christmas Day と on を使います。on のコアは「接触して」で、時間的には「固定して」という意味合いが派生します。すると、カレンダー上で固定されている日（特定の日）や意識の上で固定されている日を表すには on がピッタリです。クリスマス、誕生日、曜日、国民の祝日、結婚記念日などすべてカレンダー上で固定されている日（特定の日）とみなされます。

<表現例>

- I'm going back to my hometown at Christmas time.（クリスマス期に故郷に戻る。）
- Shops in our neighborhood are open until midnight on Christmas Day.
（クリスマスには近所の店は深夜 12 時まで開いている。）

このように、日本語の翻訳ではなく、英語表現のコアに注目すること、これによって感覚的に英語の表現を理解することができるようになるはずです。

(p.26 の答え: 1. in 2. in 3. in 4. at 5. at 6. on 7. on)

なぜハーバード大学は
Harvard University で
オックスフォード大学は
the University of Oxford になるの？



Q. () に何を入れますか。

1. ビンの底 **the bottom** () **a bottle**
2. ビンのラベル **the label** () **the bottle**

▶ 答えは p.30

今回は英語でもっともよく使われる前置詞、of です。of といえば、ほとんどの生徒が日本語の「の」を連想するようです。しかし、その意味をどう理解すればよいでしょうか。of =「の」でうまくいく場合もありますが、そうでない場合のほうが圧倒的に多くあります。日本語の「の」は「名詞+の+名詞」の形で、「ビンのラベル」「ドアの鍵」「雨の日」といった具合に、2つの名詞概念を結合することができます。

英語では、「ビンのラベル」は of で表現することはできず、the label on the bottle と on を使います。同様に「ドアの鍵」も the key to the door であって、of ではありません。ちなみに「雨の日」は前置詞を使うというより、a rainy day と表現します。では、「ビンの底」というと、the bottom of a bottle と of で表現することができます。

そこで、of をどう理解すればよいかですが、以下の図のように、「何かから出ると同時にその何かに帰属するという関係」を表すと考えるといいと思います。

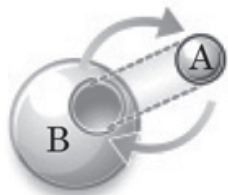
on のコア＝「(A が)B から出ると同時に B に帰属して」

帰属の部分と出所の部分の双方が含まれるところに of の特徴があり、そのどちらに強調点が置かれるかによって異なった意味合いの用法が生まれるのです。

具体例を見てみましょう。the top of the mountain (山の頂上)の頂上は山の一部ですが、the top of the mountain と表現することで、the top に話題としての注目がいきます。しかし、話題化された頂上は山に帰属するという関係になることには変わりません。

the bottom of a bottle (ビンの底) のように「部分－全体」の関係を表す場合には of を使います。一方、「ビンのラベル」や「ドアの鍵」におけるラベルや鍵はビンやドアを構成する一部ではないため of は使わず、それぞれ the label on the bottle (ビンに貼ったラベル)、the key to the door (ドアに合う鍵) のように表現します。

以下では、いくつか of を使ったおもしろい例をみていきます。



オックスフォード大学とハーバード大学

大学名で気になるのは、オックスフォード大学とハーバード大学を英語で正式に表すと the University of Oxford と Harvard University となることです。これは、オックスフォードが地名であることに関係します。地名だからそこに帰属する（代表的な）大学として the University of Oxford といえるのです。一方、ハーバードは地名ではないので、the University of Harvard とはいいません。シカゴ大学は the University of Chicago で、ニューヨークのコロンビア大学は Columbia University というのも理解ができます（ただこれは絶対的な規則ではなく、インディアナ大学は Indiana University といいます）。

die of と die from

of を先ほどのコアのイメージで理解しておくと、「…が原因で死ぬ」という場合、die of cancer (ガンで死ぬ)、die of hunger (飢え死にする) のような die of における of の選択が理解できるはずです。of は原因と死が切っても切れない関係を表すからです。die from は die from working too hard のように「過労」が起因となって、ある経過を辿って死に至る

という意味合いになります。つまり、起点なのでなんらかの経過を辿ってという意味合いが from にはあります。そこで「傷が原因で死ぬ」という場合は die from gunshot wounds といいます。もちろん、死因が直接的か間接的かは難しい問題で、原因によって of か from が決まるわけではありません。むしろ、「そもそもの元となる原因」なら from を、「(過程を含まない)直結する原因」として表現する場合には of を使うと考えるのが妥当だと思います。そこで die from cancer といういい方も可能です。ただ、その場合、病気を患った過程が連想されるでしょう。

It's five of six. と It's five to six.

「6時5分前」だと It's five to six. と It's five of six. ともいいます。five to six だと to があるため「6時の手前」だとわかりますが、どうして five of six で「6時5分前」という意味になるのでしょうか。つまり、どうして「6時5分過ぎ」にならないのでしょうか。ここで of のコア図式を当てはめてみましょう。すると、「全体」が6時で、「部分」が5分であるという関係になります。つまり、6時になるのにあと5分ということです。

It's kind of you … と It's important for you …

It's kind of you to give up your seat for an elderly person. の of についても一言。これは「年配の人に席を譲るとは、君は親切だね」という意味です。It's important for you to give up your seat for an elderly person. といういい方もあります。of you と for you の違いは何でしょうか。まず、kind of you は相手の人柄を表現しています。人柄というものは誰かに帰属するものであり、その人柄があらわれているというのが It's kind of you です。だから、It's kind of you まで一気にいってから、その根拠となることを to give up your seat for an elderly person と述べる手順になります。一方、It's important (それって重要だ) は何かに対する話し手の評価です。そこで、It's important で息継ぎをして、for you to give up your seat for an elderly person と表現することが可能です。そのように表現することで、「それって重要な、君にとって、年配の人に席を譲ることは」といった意味合いになります。

最後に、A と B が抜き差ししない関係を示すことから、その応用として A と B のいろいろな意味関係を示すことがあります。a feeling of gratitude は「感謝の気持ち」、a theory of communication は「コミュニケーションの理論」となり、日本語では「の」を使いますが、英語の of はそれぞれ、前者が「感謝という気持ち」という意味で a feeling の中身を gratitude で説明する形になっており、後者では、「コミュニケーションについての理論」という意味でこの of は関連の意味合いを示します。しかし、いずれも of の「切っても切れない関係」から派生した意味合いであるということが大切です。

on は「～の上に」では
ないんですか？



Q. () には同じ単語が入ります。何を入れますか。

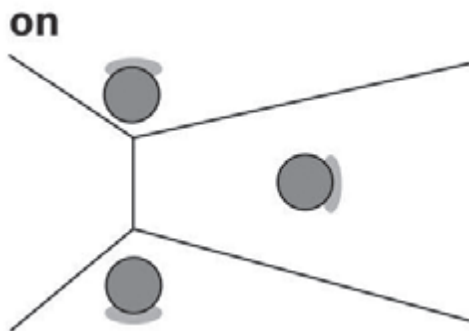
1. ソファの上に猫がいます。 **The cat is () the sofa.**
2. 木にりんごがなっています。 **There are apples () the tree.**
3. 逆立ちできますか？ **Can you stand () your hands?**
4. バスに乗っています。(移動中) **We are () the bus.**
5. 月曜日にテストがあります。 **I have a test () Monday.**

▶ 答えは p.36

今回は、英語で使われる頻度の高い前置詞 **on** を取り上げます。「on」＝「～の上に」と訳しがちですが、それだけでは捉えられない、**on** の本質的な意味とその広がりについて解説します。

「on」のコア＝接触(触れていること)

onのコア(本質的な意味)は「接触」(右図を参照)です。「接触」と一言にいても面への接触もあれば、点的な接触もあります。本質的な意味から捉えると、一見例外的な使い方にみえるものも、すべて説明ができます。ここでは「接触」から広がるさまざまな意味をみていきたいと思います。



© Benesse Corporation 2003

「面への接触」

まず、on の典型例は、下の図に示すような水平面への接触です。

on



© Benesse Corporation 2003

<表現例>

・ There is an apple on the table.

(テーブルの上りんごがあります。)

この場合、「on = 〓の上に」という意味として理解できます。一方で、最初の図からわかるように、on は垂直面への接触や、水平面といっても天井のような面の下側で接触しているものも同時に表します。ですので、on には単純に「〓の上に」だけでは表せない意味があります。以下がその例です。

<表現例>

- ・ the fly is on the wall / the ceiling (壁の上 / 天井にいるハエ)
- ・ the steam on the car window (車の窓のくもり)
- ・ the shadow on the wall (壁の影)

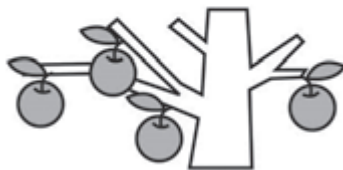
[点的な接触（点として触れていること）]

次に、接触する先が面というよりもむしろ点というほうがふさわしい場合があります。

<表現例>

- ・ a fish on the hook (釣り針にかかった魚)
- ・ apples on the tree (木になっているりんご)

on



© Benesse Corporation 2003

a fish on the hook では、釣り針に魚がかかった状況を「接触」として表しています。apples on the tree も同様に考えることができます。上の図のようにりんごの茎の部分と枝の関係を「接触」として捉えているのです。

それではここで問題です。() の中に前置詞 on/ at /in のいずれかを入れましょう。

<表現例>

- ・ She has a diamond ring () her finger. (彼女はダイヤモンドの指輪をはめています。)

ここでは on が正解ですが、日本人学習者は at や in を誤用する傾向があります。これは「on = 〜の上に」と理解しているために起こる典型的な間違いといえるでしょう。この用例は、面への接触とも、点への接触とも捉えることができます。

接触（触れていること）から広がる意味

[水平面への接触から広がる意味：「支える」、「乗り物に乗る」]

(1) 支える (support)

水平面への接触では、X on Y の Y は X の「土台（支えるもの）」としての役割を果たします。a bottle on the table (テーブルの瓶) といえば、the table が土台として a bottle を支えるという意味があります。そこから、on には「支える (support)」という広がった意味での用法があります。

<表現例>

- ・ Can you stand on your hands? ・ I sleep on my back.

Can you stand on your hands? は「逆立ちできますか」です。「手で体を支えて立つ」から「逆立ち」になるのです。I sleep on my back. は「仰向けで寝る」ですが、「背中が支えになって

いる」ということですね。この「支える」の意味は比喩的にも展開します。

<比喩的表現例>

- ・ I can't fight on an empty stomach.
- ・ We live on potatoes.

I can't fight on an empty stomach. (腹がへっては戦はできぬ) といういい方がありますが、on an empty stomach は文字通り「すきっ腹を支えにして」という意味合いです。We live on potatoes. (我々はポテトを常食にしている) となると、ポテトが生存を支えているということから「依存する」という意味が生まれます。rely on ~ (～を頼りにする) の on も「支えて」の on の応用です。

(2) 乗り物に乗って

水平面への接触から「乗り物に乗って」という意味も派生します。動かないこわれたバスに乗り込むだけなら get in the bus で、We are in the bus. (バスの中にいるよ) となります。しかし、運行しているバスに乗るときは get on the bus が使われ、移動しているバスに乗っているときは We are on the bus. といいます。これは on the plane, on the boat, on the train でも同じです。ちなみに、搭乗のことを on board といういい方もします。飛行機に乗ったときなどに Welcome on board. という表現を聞いたことがある方もいるのではないのでしょうか。この board は「板」の意味で、面への接触の用法の中の水平面への接触の on が生かされています。

<表現例>

- ・ We are on the bus/ plane/ boat/ train.

[点的な接触から広がる意味 : 「つながって」「連続して」]

一方、「点的な接触」の場合は、電気の on / off (回路がつながると電気がつく、離れると電気は消える) のように、on は「つながって」という意味に広がり、「連続して」という意味も含まれてきます (右図参照)。

<表現例>

- ・ Hold on a minute.
- ・ The dog is on the leash.
- ・ I keep on studying English very hard.
- ・ I am on duty tonight.

on



© Benesse Corporation 2003

電話で Hold on a minute. (少々お待ちください) は (この on は副詞ですが) 「つながった状態をおさえておく」という意味です。The dog is on the leash. も「その犬はひもにつながれている」ということですね。on and on (連続的に) も副詞ですが「連続して」の典型例です。前置詞 on の「連続性」は、keep on (…し続ける)、go on (…し続ける) などの表現に見られるばかりか、on duty (当番で)、on guard (警戒中で)、on the go (活動中で) などの表現の背後にも読み取ることができます。ちなみに、on には次のような用法があります。

<表現例>

- On reaching Tokyo Station, Bill made a phone call to the company.
(東京駅に到着するやいなや、ビルは会社に電話をした。)

この on は as soon as とは意味合いが違います。as soon as だと「できるだけ早く」ということで到着して 5 分後でもかまいませんが、on は 2 つの動作 (「東京駅に到着する」と「電話をかける」) の間に切れ目がないということ、つまり、連続して次の動作に入った (接触ということばを使えば、1 つ目の動作と 2 つ目の動作には重なっている接点がある) ということです。

[接触から広がる「固定」の意味：話題と時間の固定]

on の「接触」は接して離れないというところから「固定」の意味に広がることがあります。「インド経済について語る」だと talk on Indian economy と talk about Indian economy の両方の表現が可能で、on のほうが専門的な響きがあるといわれます。それは、「話題がインド経済に接して離れない」ということから「もっぱらインド経済について語る」となるからです。about だと関連・周辺的な話題にも触れる感じがします。

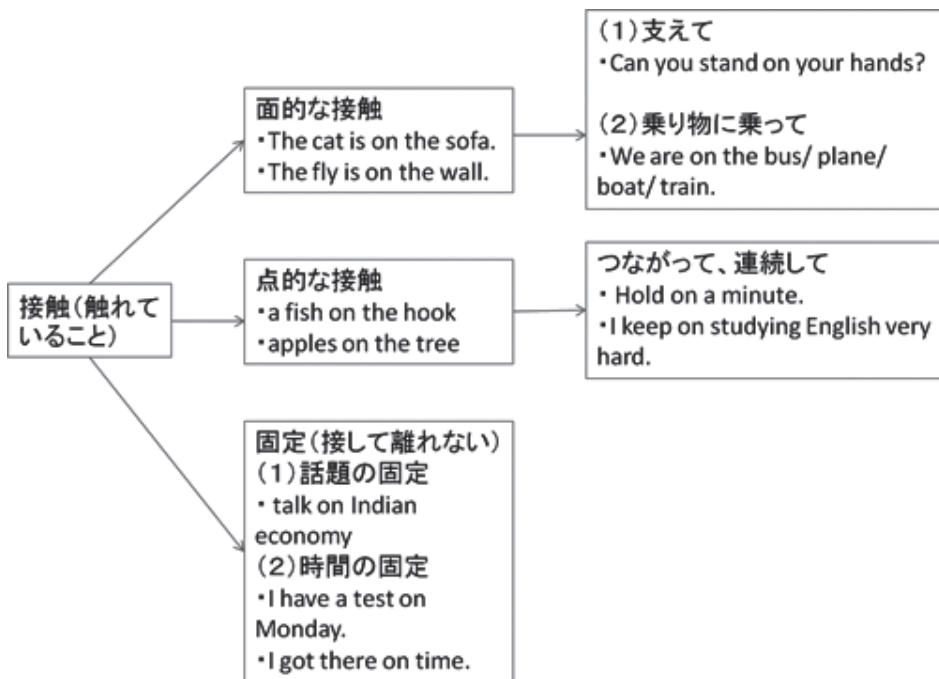
また、「接触」が時間に関して使われると、時間的固定 (日時の特定) という意味合いが出てきます。曜日や国民の祝日やある特定の日付などを on で表現するのは、カレンダー上で固定されている (決まっている) からであると考えられます。また、「ちょうどぴったり時間に間に合った」という表現は I got there on time. のように in time (時間に余裕を持って間に合った) とは区別して使います。

<表現例>

- I talk on Indian economy.
- I have a test on Monday.
- My friend will visit me on November 12th.
- I got there on time.

on の意味のまとめ

以上をまとめると、on の「接触」という本質的意味は、次のような意味的な広がりを持っているといえます。



on の意味のイメージ図

ARCLE Web サイトのご案内

本冊子のコラム他、ARCLE での研究活動を発信しています。

<http://www.arcle.jp/>

英語教育 アークル



ベネッセ教育総合研究所グローバル教育研究室 Web サイトのご案内

英語教育に関する調査研究の結果等をご覧いただけます。

<http://berd.benesse.jp/global/>

ベネッセ グローバル教育研究室



※この冊子は、ARCLE ホームページ (<http://www.arcle.jp/>) で、2013 年 6 月～2017 年 3 月に掲載のコラム
「先生、これは英語でどういうんですか？」を再編集したものです。



「先生、これは英語でどういうんですか？ 生徒が間違えやすいことを、英語の本質的な意味から考える」

田中 茂範 著

発行日：2017年3月31日

編集・発行：Action Research Center for Language Education (ARCLE/ アークル)

206-0033 東京都多摩市落合 1-34 ベネッセ教育総合研究所内

* ARCLE はベネッセ教育総合研究所が運営する英語教育研究会です

ベネッセ教育総合研究所